

# 病害虫防除技術情報第9号

平成25年7月9日

三重県病害虫防除所

**斑点米カメムシ類の今後の増加が懸念されます。適切な防除を行い、斑点米の発生を防ぎましょう。**

1. 対象作物：イネ

2. 対象病害虫名：斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ)

3. 発生状況：やや多い

(1)巡回調査(6月第2週)では、畦畔イネ科雑草の20回振すくい取りによる斑点米カメムシ類成幼虫の発生地点率58.1%(平成24年35.9%)、すくい取り虫数5.1頭(平成24年1.7頭)と平成24年に比べて多い状況です。特にアカスジカスミカメは発生地点率50.6%(平成24年24.4%)、すくい取り虫数4.6頭(平成24年1.2頭)と、過去10年で最も発生が多く、注意が必要です。

(2)広域防除員調査(7月2日・津地域)および巡回調査(7月8日・松阪地域)では、水田周辺においてホソハリカメムシ成虫、クモヘリカメムシ成虫、シラホシカメムシ類成虫、アカスジカスミカメ成虫の活動が確認されました。

(3)今年の梅雨明けは7月8日頃と、平成24年(7月21日頃)より早い状況です。また3か月予報(6月25日・名古屋地方気象台発表)によると、8月の降水量は平成24年並か少ない予想であり、斑点米カメムシ類の活動および増殖に好適な気象条件が続くと見込まれます。

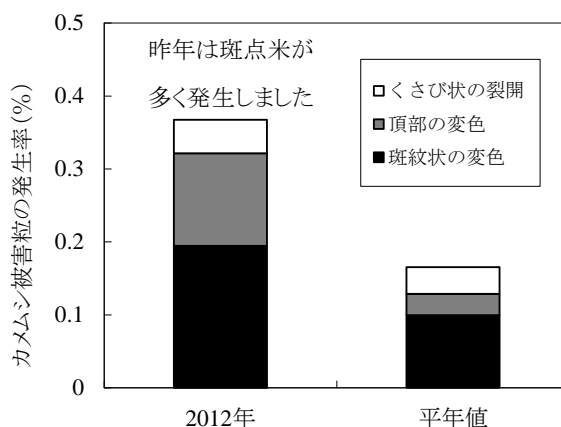


図 昨年の定点圃場(県内20か所の平均値)における、粗玄米でのカメムシ被害粒の発生状況(2012年巡回調査結果)。

4. 防除上の注意事項

(1)昨年は斑点米カメムシ類が県内全域で多発し、特に中山間地をはじめとする山沿いの地域や、作期の遅い圃場においては、斑点米による格落ちが顕著でした(図参照)。発生状況に注意してください。

(2)薬剤防除は穂揃い期に実施しましょう。斑点米カメムシ類は移動性が高いため、広域での一斉防除が効果的です。

(3)防除後も水田への侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7~10日後に追加防除を実施してください。水田内での増殖を防ぎましょう。

(4)周囲よりも出穂の早い水田では、被害が集中するので防除を徹底しましょう。

(5)出穂直前および出穂後の除草は、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込み、加害を助長するので避けましょう。やむを得ず出穂後に除草を行う場合は、水田の薬剤防除計画に合わせて行いましょう。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。